

1. 調査報告概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成20年5月19日

【評価実施概要】

事業所番号	2774101550
法人名	なにわ保健生活協同組合
事業所名	びろうじゅおおよど
所在地	大阪市北区大淀中1丁目6-26 (電話) 06-6452-6588

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成20年4月25日

【情報提供票より】(平成19年12月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	12人	常勤3人, 非常勤9人, 常勤換算	12人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	3階建ての	2階	～ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000円	その他の経費(月額)	45,000円	
敷金	有(円) ②			
保証金の有無 (入居一時金含む)	①(225,000円)	有りの場合 償却の有無	① / 無	
食材料費	朝食	300円	昼食	400円
	夕食	500円	おやつ	円
	または1日当たり		円/1ヶ月当たり 36,000円	

(4) 利用者の概要(平成19年12月20日現在)

利用者人数	17名	男性	3名	女性	14名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	11名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.7歳	最低	56歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大阪府済生会中津病院、医療法人くろだ歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域福祉を実践する生協法人が運営するグループホームで、認知症デイサービス、訪問介護、居宅支援、配食サービス事業が併設され、近隣に同一法人が運営するクリニック、訪問看護サービス事業があります。「(要旨) 認知症についての正しい理解及び介護サービスについての専門的な知識と技術を持つ職員によって一人ひとりの状況と希望に合わせたサービスを提供していきます。個々を大切に、家庭的な雰囲気の中でなじみのある人間関係を形成し、不安を感じることはないよう、さりげなくかつ温かいサポートにより毎日が実りある生活になるよう支援をします。個々の生活歴を大切に、個々に適した取り組みを提案し、残された機能の能力低下防止に努めます。」をホームの理念として掲げ、利用者が安心してその人らしい生活を続けられるよう家族、職員、地域住民と共に支えています。職員は利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向に沿うよう支援し、やさしい雰囲気です。同一法人のクリニックの医師と訪問看護ステーションの看護師との医療連携により、利用者に必要な医療と看護を提供しています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	前回の外部評価で示された事項について、改善が進んでいます。フロアドア前のエレベーターホールに手作り作品や押し絵が飾られ、訪ねやすい雰囲気になっています。月例の定例会議を開催することにより、職員間の意思疎通が円滑になるようにし、また申し送り書類に職員の確認サインがなされるようになっていきます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、管理者が作成していますが、職員と議論をして完成させ、認識の共有化を図り、サービスの具体的な改善に取り組むことが望まれます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は地域包括支援センター職員、地域ネットワーク推進員、地域の代表、家族の参加のもとで、4ヶ月毎に開催しています。会議ではホームの活動方針や運営状況、行事、利用者の生活ぶりについて説明しています。個別ケアの推進や家族会の立ち上げ、ボランティアを増やすこと、地域との交流について意見を交わし、地域との相互の理解を深めています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族との面会時には、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の医療や安全に関わる事項については、必要の都度電話で家族に報告しています。今後、利用者一人ひとりの日常生活ぶりを家族に伝えるため、定期的に便りを送付することが望まれます。家族とは面会時だけでなく、家族も参加する行事の時に、家族が思いや希望、不満を表現できるように対応しています。意見箱も設置して、家族が意見を表現する機会を設けています。近々家族会を立ち上げる予定をしています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域の夏祭りや餅つきに参加しています。また運営推進会議のメンバーである地域代表とも交流しています。屋上菜園での園芸やハーモニカ演奏のボランティアがホームを訪ね、利用者とともに楽しい時間を過ごしています。中学生の体験学習を受け入れたり、地域の人が家族の認知症のことを相談するためホームを訪ねたりしています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「(要旨)認知症についての正しい理解及び介護サービスについての専門的な知識と技術を持つ職員によって一人ひとりの状況と希望に合わせたサービスを提供していきます。個々を大切にし、家庭的な雰囲気の中でなじみのある人間関係を形成し、不安を感じることはないよう、さりげなくかつ暖かいサポートにより毎日が実りある生活になるよう支援をします。個々の生活歴を大切にし、個々に適した取り組みを提案し、残された機能の能力低下防止に努めます。」をホームの理念として掲げ、利用者が安心してその人らしい生活を続けられるよう家族、職員、地域住民と共に支えています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	年間の事業計画や月例のフロア会議、毎日の業務等を通じて理念を共有し、理念に沿った介護サービスの実践に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	<p>○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている</p>	<p>自治会に加入し、地域の夏祭りや餅つきに参加し、運営推進会議メンバーである地域代表とも交流しています。屋上菜園での園芸やハーモニカ演奏のボランティアがホームを訪ね、利用者とともに楽しい時間を過ごしています。中学生の体験学習を受け入れたり、地域の方が家族の認知症のことで相談するためホームを訪ねたりすることもあります。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>前回の外部評価で示された事項について、改善が進んでいます。フロアドア前のエレベーターホールに手作り作品や押し絵が飾られ訪ねやすい雰囲気になりました。職員間の意思疎通が円滑になるように毎月定例会議を開催し、申し送り書類にも職員の確認サインがなされるようになっていきます。自己評価については職員と相談しながら管理者が作成し、認識の共有化を図りながら、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は区の地域包括支援センター職員、地域ネットワーク推進員、地域の代表、家族の参加のもとで、4ヶ月毎に開催しています。会議ではホームの活動方針や運営状況、行事、利用者の生活ぶりについて説明をしています。個別ケアの推進や家族会の立ち上げ、ボランティアを増やすこと、地域との交流について意見を交わし、地域との相互の理解を深めています。	○	運営推進会議は年6回、もしくは概ね2ヶ月に1回開催することが求められます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の地域包括支援センターと困難事例について相談しています。大阪市の事業者連絡会に出席し、情報交換を行ってサービスの向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との面会時には、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、利用者の医療や安全に関わる事項については、必要の都度電話で家族に報告しています。今後、利用者一人ひとりの日常生活状況を家族に伝えるため、定期的に便りを送付することが望まれます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時だけでなく、家族も参加する行事の時に、家族が思いや希望、不満を表せるように対応しています。意見箱も設置して、家族が意見を表せる機会を設けています。近々家族会を立ち上げる予定をしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員数に比べ、退職者の割合が多くなっていますが、残った職員の頑張りや新人職員の採用による補充により、利用者への影響は最小限に抑えられています。新人職員の採用時研修も計画的に実施しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の育成教育に熱心で、外部研修や内部研修へ積極的に参加させています。職員は半年毎に各自のチャレンジ項目を設定し、達成状況を自己評価して上司に報告する制度があり、ステップアップを目指し努力しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で定期的に認知症ケア会議を開催し、グループホームやデイサービスに従事する職員が認知症の事例研修を行ったり、同一法人のグループホームと交流研修を行ったりしています。また、大阪市の事業者連絡会に参加し、情報交換を行っています。今後はさらにグループホームのネットワークを活用し、グループホーム間で職員の相互研修を実施することが望まれます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の入居前には、職員が家庭訪問を行ったり、利用者や家族がホームに来訪したりするなど、家族や本人の不安を取り除き、安心して入居、サービスを受けられるように取り組んでいます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごし、学び支えあう関係を目指した支援を行っています。昔満州にいて餃子作りが得意な方、習字の得意な方等利用者の得意だった分野で、家事や行事の機会を通して学び支えあう関係を作っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族や利用者からの聞き取りは行われていますが、その後の毎日の生活を通じて得られた利用者の生活歴や意向など、新たな気付きの記録と整理がなく、利用者一人ひとりの暮らしや楽しみ方の希望が十分把握できていない状況です。	○	毎日の生活を通じて得られた利用者の生活歴や意向など、新たな気付きを記録・整理し、日々のケアや暮らしや、楽しみについて生かしていくことが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の現在の暮らしや願い、心身の状況を把握して介護計画を作成しています。しかしケース検討での評価が不十分であり、その結果も活かされていません。介護計画の家族への説明が不十分で家族の承認も得ていない状況です。	○	介護計画は利用者や家族、医師や看護師、ケアマネジャーが話し合いを行った上で作成し、家族へ説明を行い、承認を得ることが求められます。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的には6ヶ月毎に、また状態の変化がある時はその都度見直しを行うことになっていますが、見直しができていないケースがあります。介護計画の援助項目に対応したモニタリングがなく、ケース検討の結果についても評価が不十分で、適切な介護計画の見直しができていません。家族への説明と承認の手続きもなされていません。	○	介護計画の見直しは利用者個別の援助項目に連動したモニタリングを実施し、ケース検討会議での評価の後、見直しをすることが求められます。 見直しの結果は家族に説明し承認を取ることが求められます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人のクリニックの医師と訪問看護ステーションの看護師との医療連携により必要な医療と看護を提供しています。ホームは必要の都度通院介助も行っています。地域のボランティアの支援も受けています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人クリニックの医師による往診医療を受けていますが、診療科目によっては入居以前からかかりつけの医療機関に引き続き医療を受けています。協力病院と連携し、夜間や急変時の対応についての体制も整備されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、ホームでの看取り実施の指針を伝え、家族に説明し同意を得ています。状況の変化とともに、利用者と家族、医師、ホームとの話し合いを行いながら対応していく予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員の言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。職員は採用時に個人情報の取り扱いについて法人と書面を取り交わしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮し、利用者のペースでゆったりと暮らせるよう支えています。職員が利用者を制止したり、急かしたりする言葉はなく、また起床や食事の時間についても柔軟に対応しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常、同一法人の配食センターから調理済みの食材を取り寄せ、ご飯と味噌汁はホームで準備しています。利用者は食事準備、味噌汁用の野菜の下ごしらえ、盛り付け、後片付け等の一連の作業に得意な分野で積極的に参加しています。毎朝食と日曜日は希望の献立で、利用者が調理にも参加し楽しんでいます。職員は利用者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをさりげなく行い、会話をしながら楽しくなごやかな雰囲気を作っています。菜園で収穫した野菜が食卓にのることもあります。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	通常週2回の入浴をゆっくりと寛いで楽しんでいます。	○	利用者が週に3回はゆっくりと寛いで入浴できるよう、体制整備と雰囲気作りが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は一日の生活の中で家事にそれぞれの役割を見つけ、分担し合いながら張り合いのある生活を送っています。利用者が共同で季節毎の花などの自然や風物、行事を表現する大型の壁飾りを作ったり、日曜日に調理をしたり、習字で職員の張り紙づくりの手伝いをしたりしています。また新聞を読んだり、デイサービスにくる友人と碁をうったり、屋上の菜園でのんびりしたり、ボランティアと一緒に園芸をしたりして楽しんでいます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節の花見や初詣などには出かけていますが、日常的な買い物や周辺の町や公園への散歩の機会が少なく、利用者が普段行けない場所へ個別に外出支援ができていない状況です。	○	職員の体制を整備し、日常的な周辺散歩や普段行けない場所への利用者個別の外出の支援をすることが求められます。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関ドアやエレベーターは開放されていますが、フロアドアには鍵がかかっています。	○	職員間で身体拘束についての議論と理解を深め、鍵をかけず見守りによる対応ができるよう努力することが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に備えるマニュアルは作成していますが避難訓練は実施していません。非常・災害時の食料品と水の備蓄についても行っていません。	○	災害対策のマニュアルに従って、年2回の避難訓練をすることが求められます。非常・災害時のための食料品と水の備蓄をすることが求められます。また備蓄については「非常用備蓄マニュアル」等の取り決めを作成してはいかがでしょうか。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量と水分摂取量を把握し記録しています。栄養バランスについては、同一法人の配食センターの管理栄養士のアドバイスを受けています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エレベーターホールには手作り作品や押し絵が飾られ、椅子もあり訪ねやすい雰囲気になっています。リビング兼ダイニングルームは明るく、菜園で育った季節の花の生け花が飾られています。壁には季節感のある貼り絵や行事写真が飾られ、生活感のある家庭的な空間になっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、利用者が整理ダンス、書斎机、飾り棚、和机、ソファ、椅子、仏壇、テレビ、花、手作り人形、新聞、家族の写真等使い慣れた馴染みのある物を持ち込み、個性的で、落ち着き安心して生活できる空間になっています。		